東京創元社編集部 2016 隠し玉.doc

2016/04/02

■リアーン・モリアーティ／和爾桃子訳　**『ささやかで大きな嘘』**　【４月刊行】
海辺の公立幼稚園のパーティで起きた保護者の不審死。事故？　それとも……。ことの始まりは、子供同士のトラブルだった。世界 31 ヶ国で刊行、英米で 150 万部突破の大人気ミステリ登場。

■Ｍ・Ｒ・ケアリー／茂木健訳　**『パンドラの少女』**　【４月刊行】
〈餓えた奴ら〉の発生によって文明が完全崩壊したイギリスで発見された、奇跡の少女メラニー。彼女はこの世界の救世主なのか？　圧巻の一大エンターテインメント長編！　映画化決定。

■ウルスラ・ポツナンスキ／酒寄進一訳　**『古城ゲーム』**　【４月刊行】
古城がそびえる人里離れた森で、騎士や魔女になりきり十四世紀の冒険を疑似体験するゲームに参加した若者たち。だがその一部が失踪、外部とも通信不能に。誰かが仕掛けた罠なのか。圧巻のサスペンス！

■バリー・ライガ／満園真木訳　**『ラスト・ウィンター・マーダー』**　【５月刊行】
ふたつの死体とともに閉じ込められたジャズ。一方恋人コニーは父ビリーの手に。ジャズは父の跡を継ぎ殺人犯になってしまうのか。『さよなら、シリアルキラー』に始まる驚異の３部作ついに完結。

■キャシー・アンズワース／三角和代訳　**『埋葬された夏』**　【５月刊行】
ある少女が殺人者として裁かれてから二十年――そしていま、再び事件が動きだす。あの夏、海辺の町で本当は何が起きたのか？　過去と現在を往来する語りが衝撃と感動を呼ぶイギリス産傑作ミステリ。

■ロサ・リーバス＆ザビーネ・ホフマン／宮崎真紀訳　**『偽りの書簡』**　【５月刊行】
綴り方、言い回し、引用方法等、「文章」は指紋と同じくらい殺人捜査の貴重な手がかりとなる。言語と文学を愛する文献学者と猪突猛進の新人記者、姉妹のような二人が織りなす傑作ミステリ！

■エミリー・ブライトウェル／田辺千幸訳　**『幽霊はお見通し』〈家政婦は名探偵３〉**　【５月刊行】
裕福な婦人は交霊会からの帰宅直後に殺された!?　単純ゆえ手ごわい事件に使用人探偵団が挑む第３巻。

■モリー・グプティル・マニング／松尾恭子訳　**『戦地の図書館　海を越えた一億四千万冊』**【５月刊行】
戦争が本を変え、本が戦争のかたちを変えた……。第二次大戦中、アメリカの図書館員たちと軍が展開した史上最大の図書作戦「兵隊文庫」の全貌を綴る傑作ノンフィクション。「兵隊文庫」書目リストつき。

■キャンディス・フォックス／冨田ひろみ訳　**『邂逅　シドニー州都警察殺人捜査課』（仮）**　【６月刊行】
海底から発見されたのは、損壊された遺体が収められた 20 もの箱。シドニー州都警察殺人捜査課に異動してきたばかりの刑事フランクは、新たに相棒になった女性刑事エデンと共に未曾有の連続殺人を追う。

■ブラッドフォード・モロー／谷泰子訳　**『古書贋作師』**　【６月刊行】
殴打され、両手首を切断した状態で発見された古書贋作師。稀覯書の世界へと読者を誘う、異色ミステリ。

■エルスベツ・イーホルム／木村由利子訳　**『すべては自己責任』（仮）**　【６月刊行】
隣家の火事で、留守番の女性が行方不明に。同じ日学校でも放火が。二つの事件を繋ぐのは元女性教師。

■エドワード・Ｄ・ホック／木村二郎訳　**『怪盗ニック全仕事３』**　【６月刊行】
日本で仕事？　骨折しながら盗みに挑む？　本邦初訳＆単著初収録作多数で贈る、文庫版全集第３弾。

■サラ・グラン／髙山祥子訳　**Claire DeWitt and the Bohemian Highway**　【６月刊行】
元恋人のギタリストが銃殺された。思いを残したまま別れた相手を喪い、満身創痍になりながらも懸命に真実を追うクレア。謎を解くことで誰かを救うことはできるのか。『探偵は壊れた街で』に続く新たな苦闘。

■サラ・ハルス／髙山祥子訳　**『ブラック・リバー』**

六十歳の男性ウェスリーは、かつて暮らしたブラック・リバーの町へ還る。白血病で亡くなった妻の最後の望みをかなえるため、そして、封じてきた過去と折り合いをつけるため――。感動を呼ぶミステリ。

■キャサリン・チャンター／玉木亨訳　**The Well**

異常な干魃が続くイギリスで、“わたし”がいるこの農場にだけ雨が降る。常に監視されている“わたし”は、心の安寧を得るために語りはじめる。かつて起きた殺人事件で何をしたか、犯人は誰なのかを――。

■ザーシャ・アランゴ／浅井晶子訳　**『悪徳小説家』**

大ベストセラー作家には、決して明かせない秘密が……。

■ローリー・R・キング／山田久美子訳　**『パリの骨』（仮）**

1929 年パリ。グラン＝ギニョール劇場、600 万人が眠る地下納骨堂……。『シャーロック・ホームズの愛弟子』のベテランが、失踪した留学生を追う私立探偵の活躍とパリの闇を鮮烈に描写する魅惑のミステリ。

■ジュリー・ベリー／神林美和訳　**The Scandalous Sisterhood of Prickwillow Place**

1890 年イギリス。小規模の女子寄宿学校で、夕食中に校長夫人とその弟が突然息絶える。それぞれの事情から学校の閉鎖を恐れた 7 人の少女たちは事件を隠し、得意分野をいかして真相を解明すべく奮闘する。

■カーリン・フォッスム／成川裕子訳　**『狼を恐れた男』（仮）**

独り暮らしの老女が玄関先で死んでいた事件。捜査で浮上してきた容疑者は、偶然銀行強盗の人質となってしまう！　ガラスの鍵賞受賞作家による、全世界でシリーズ累計 550 万部突破のノルウェー産警察小説。

■ヘレン・マクロイ／駒月雅子訳　**『死せる真実』（仮）**

自白剤が生んだ悲惨なパーティと殺人事件。目撃者として事件に関わることとなった精神科医ウィリング博士が推理の果てに導き出す真犯人とは？　マクロイ屈指の謎解き純度を誇る傑作長編、本邦初訳！

■コリン・ワトスン／直良和美訳　**Hopjoy Was Here**

死体なき殺人事件を巡る、諜報機関と地元警察の捜査合戦が導く予想外の真実。英国本格第二弾。

■シャーロット・マクラウド／戸田早紀訳　**The Balloon Man**

てんやわんやの野外結婚式の最中に死者が出て!?　セーラ・ケリングシリーズ最終巻、本邦初訳で登場。

■マージェリー・アリンガム／猪俣美江子訳　**『見えないドア　キャンピオン氏の事件簿 II』（仮）**

紳士探偵キャンピオン氏の活躍を描く、短編集第 2 弾。表題作ほか本邦初訳作を含む全 11 編を収録予定。

■ヘニング・マンケル／柳沢由実子訳　**『流砂』（仮）**

北欧ミステリの帝王が死を覚悟し書き残した、人間への、世界への愛、尽きせぬ思いに溢れたエッセイ集。

■エラリー・クイーン／中村有希訳　**『エジプト十字架の謎【新訳版】』**

■アーナルデュル・インドリダソン／柳沢由実子訳　**『緑衣の女』（文庫化）**

■ヘニング・マンケル／柳沢由実子訳　**『北京から来た男』（文庫化）**

■カタリーナ・インゲルマン＝スンドベリ／木村由利子訳　**『犯罪は老人のたしなみ』（仮）**

■フレッド・ヴァルガス／田中千春訳　**『ネプチューンの風』（仮）**

■Ｅ・Ｊ・コッパーマン／藤井美佐子訳　**An Uninvited Ghost**

■ケイト・アトキンソン／青木純子訳　**Once Good Turn**

■シャルロッテ・リンク／浅井晶子訳　**『最後の足跡』（仮）**

■ジャック・ルーボー／高橋啓訳　**『オルタンスの誘拐』（仮）**

…and more!

海外の書評より

◆気をつけて！　エーコは決して楽しく面白いだけのエンターテインメントを書いたのではない。本書は実に怖ろしい物語なのだ。
——ワシントン・ポスト

◆偉大な文学に相応しい傲慢なほど挑発的な精神の復活ともいうべき小説。
——エル・クルトゥラル

◆ハイレベルなフーダニット小説——カーカス・レビュー

◆近年のエーコ作品中のベスト——ハフィントンポスト

◆衒学的かつ通俗的、悪意と情熱を兼ねそなえ……古典として残るべくして生まれた一冊——レプッブリカ

◆実に魅力的で軽やかで……さすが達人の技——パブリシャーズ・ウィークリー

著者紹介

ウンベルト・エーコ　Umberto Eco

1932年、北イタリア、アレッサンドリア生まれ。記号論学者、評論家、哲学者、文学者、作家。トリーノ大学で中世美学、トマス・アクィナスを研究。卒業後、イタリア放送協会（RAI）の文化番組や出版社ボンピアーニ社の評論部門に関わる。ミラーノ大学、フィレンツェ大学等を経て、ボローニャ大学の記号論の教授に就任。同大学名誉教授。

主な著書：評論『開かれた作品』、『記号論』、小説『薔薇の名前』、『フーコーの振り子』他多数。

訳者紹介

橋本勝雄　Katsuo Hashimoto

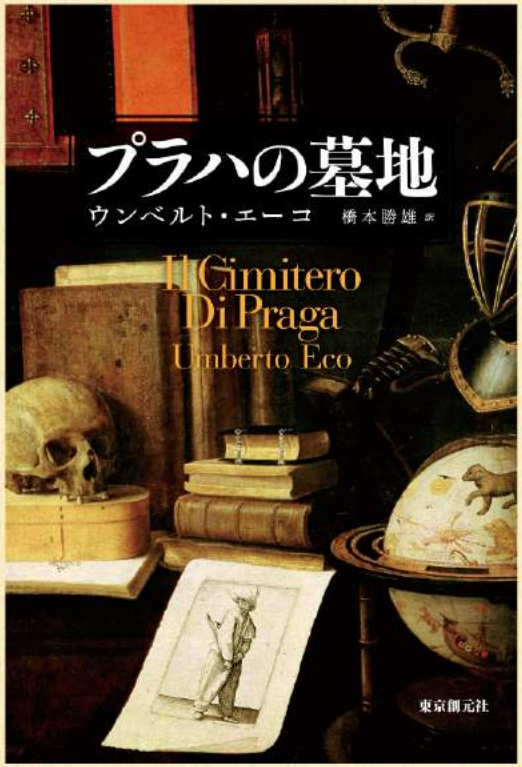
1967年生まれ。京都大学文学部卒業。同大大学院博士後期課程単位取得退学。現在、京都外国語大学教授。

訳書：ジュゼッペ・パトータ『イタリア語の起源——歴史文法入門』、シモーナ・コラリーツィ『イタリア20世紀史——熱狂と恐怖と希望の100年』、ディエゴ・マラーニ『通訳』等がある。

欧米で100万部超のベストセラー！

Il cimitero di Praga

Umberto Eco



プラハの墓地

ウンベルト・エーコ　橋本勝雄訳

【海外文学セレクション】四六判上製

ISBN 978-4-488-01051-5　3780円（本体価格3500円）

世界的大ベストセラー『薔薇の名前』の著者である
知の巨人ウンベルト・エーコが描く憎しみと差別のメカニズム！

著者のコレクションによる挿画多数収録。

お問い合わせ　東京創元社編集部　TEL 03-3268-8204　FAX 03-3268-8409
〒162-0814 東京都新宿区新小川町1-5　http://www.tsogen.co.jp

ある文書偽造家の物語

ユダヤ人嫌いの祖父に育てられ、法学を学んだ青年、稀代の美食家シモーネ・シモニーニは、祖父の死後、ある公証人のもとで遺言書等の文書偽造の仕事をまかされるようになる。イタリア統一からパリ・コミューン、そしてドレフュス事件等々、陰謀渦巻く混沌とした19世紀ヨーロッパを舞台に、その偽造術を買われた彼は、各国の秘密情報部との接点を持つようになり、その守備範囲は遺言書や証明書などの、個人的な書類から政治的な文書へと広がっていく。そして、行き着いたのは史上最悪の偽書『シオン賢者の議定書』だった。

捏造であることが判明した後も、ナチのホロコーストの根拠とされ、アラブ世界ではいまだに読まれつづけているというこの文書の陰に、このシモーネ・シモニーニの存在が……。

＊本書中、シモーネ・シモニーニ以外のほとんどすべての登場人物は実在の人物である。

19世紀のパリ、モベール広場近く、袋小路の突き当たりにある高級骨董売買（プロカンタージュ・ド・カリテ）を謳う一軒の古道具屋。
その店の二階、わずかな光が差し込む窓の前に置かれたテーブルに向かい、部屋着を身にまとったひとりの老人が何かを書きだそうとしている。
私たちはこれからそれを読んでいくことになる……。

シモーネ・シモニーニという男

父親はイタリア人、母親はフランス人。ユダヤ人嫌いの祖父に育てられる。
「奴らはとびきりの無神論者だ。奴らがまっさきに考えるのは、幸福はあの世じゃなくこの世で実現するべきだということだ。だからこの世界を征服することだけを考えて行動するんだ」それが祖父の教えだった。

◆彼が情熱を感じるものは？

美食。《トゥール・ダルジャン》の名を口にしただけで、全身に震えが走る。
私を満足させるのは、つねに性より料理だった。
主菜はどうしようか、小鴨のルーアン風、ズアオホオジロのカナッペ、そしてアントルメとして茄子のスペイン風、アスパラガスの丸茹で、王女のカソレット……ワインは何を飲もう。おそらくシャトー・マルゴーかシャトー・ラトゥールそれともシャトー・ラフィット、収穫年しだいだ。

◆彼が憎んでいるのは？

イタリア人は信用できない嘘つきで、卑怯（ひきょう）な裏切り者だ。交渉事ではしつこく、風向きしだいで立場を変える。
フランス人は悪人だ。怠け者で、恨みがましく、嫉妬深い。退屈しのぎに人殺しをする。世界中がフランス語を話すと思い込んでいる。
ドイツ人は平均してフランス人の二倍の糞をひり出す。ドイツ人を相手にするのは女を相手にするようなもので、いつまでも結論にたどり着かない。ドイツ語はフランス語のように明解ではなく、表現すべきことをけっして正確に表現しない。そのため、ドイツ人はみな自分の言いたいことを理解できず、そのあやふやさを奥深さだと思い込む。
ユダヤ人はスペイン人のように無知蒙昧（もうまい）、レバント人のように強欲で、イギリス人のように不潔で、プロイセン人のように傲慢……。
「我憎む、ゆえに我あり」

◆文書を偽造する仕事

「はっきりさせておこう」師匠である公証人は語った。
「私は偽文書を作っているわけじゃない。元来あった文書がなくなったり、あってしかるべきなのにたまたま書かれていなかった場合に、その新しい写しをつくっているのだ」と……。そして「私はいつもお客を信頼しているんだ。紳士方としか取引しないのだからる客が嘘をつくかもしれないなんて考えていたら、この商売はやってられない」
公証人は、完全に合法とは言えないその活動が当局に知られた場合の用心として公安当局のためにも働いていたのだった。
そしてシモニーニはすぐに師匠を追い越し、筆跡偽造の見事な能力を発揮するようになる。

史実について

この物語で唯一架空の人物は主人公シモーネ・シモニーニである――それに対して、彼の祖父であるカピタン・シモニーニは架空の人物ではない。ただし歴史上、バリュエル神父に送られた書簡の謎めいた書き手として知られているにすぎない。
それ以外の登場人物はすべて現実に存在し、この小説に描かれたような言動をしている（公証人レバウデンゴやニヌッツォのような脇役は別にして）。実名の人物である場合はもちろん（多くの人が嘘だと思うかもしれないが、レオ・タクシルのような人物も実在した）、架空の名前を持つ登場人物であっても、物語の都合上（実際には）二人の人物が現実に行なった言動を（架空の）ひとりの人物のものとして描いたにすぎない。
しかしよく考えてみれば、シモーネ・シモニーニも、異なる何人かの人間が現実に行なったことをまとめている以上、コラージュの産物としてではあるが、ある意味で存在したと言える。むしろ、実際には、今でも我々のあいだに存在している。（ウンベルト・エーコ　本書中「博学ぶった無用な説明」より）

＊実名（あるいは、ごくわずか変えた名）で登場する実在の人物たち
ガリバルディ、ゲトシェ、シャルコー、ゾラ、タクシル、デュマ、ドーデ、ドレフュス、バリュエル神父、フロイト、ジョリ、ラチコフスキー等々……。

◆「シオン賢者の議定書」とは？

ユダヤ教のラビたちが世界征服を計画したとする会話体の文書で、ユダヤ人を陥れるために捏造された文書。史上最悪の偽書と言われる。
自動車王ヘンリー・フォードは自分の所有する新聞で連載紹介し、その後書籍として出版。同書は大ベストセラーとなり、15か国以上で翻訳出版された。
1921年に、タイムズ紙により捏造であることが報道され、抗議や訴訟を受けたフォードは書籍の内容を否定し回収するに至った。
にもかかわらず、ドイツでは、反ユダヤ主義運動に利用され、ヒトラーは『わが闘争』中でこの文書にふれ、ホロコーストを実施するよりどころとしたのだった。現在でもアラブ諸国では読まれつづけているという。

ぼくには連続殺人犯の血が流れている、ぼくには殺人者の心がわかる

全米で評判の異色の青春ミステリ

バリー・ライガ／満園真木訳　装画:スカイエマ／装幀:中村聡　創元推理文庫

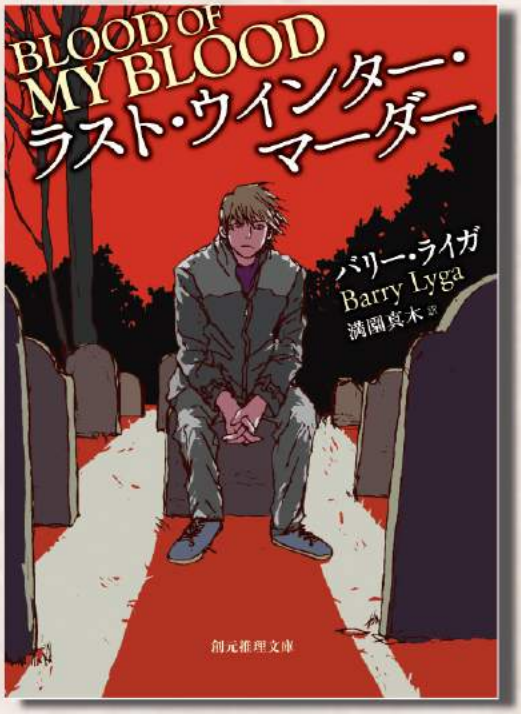
『さよなら、シリアルキラー』

ジャズは平凡な高校生だ——ひとつの点をのぞいては。それはジャズの父が21世紀最悪と言われた連続殺人犯で、ジャズ自身幼い頃から殺人者としてのエリート教育を受けてきたこと。彼が住む田舎町で殺人事件が発生、ジャズはそれが連続殺人だと主張するのだが……。

ニューヨーク
タイムズ・
ベストセラー!

『殺人者たちの王』

ものまね師事件が解決して二カ月、ジャズのもとをニューヨーク市警の刑事が訪れた。父に施された殺人者としての英才教育を生かして、ニューヨークで起きている連続殺人の捜査を手伝って欲しいというのだ。渋々同行するジャズ。だが、被害者の遺体には〈ゲームへようこそ、ジャズパー〉のメッセージが書かれていた。



そして2016年5月いよいよ刊行!

『ラスト・ウィンター・マーダー』

ジャズが目を覚ますと、そばにはふたつの死体が……。これでは自分が殺したと疑われてしまう。ハット・ドッグ・キラーの黒幕は？　みにくいJとは誰か？　謎の言葉〈カラスの王〉の意味は？　ジャズは連続殺人犯である父の跡継ぎとなってしまうのか？　驚異の３部作ついに完結！

■著者紹介

バリー・ライガ（Barry Lyga）

イェール大学卒業後、コミック業界で働く。2006年にYA小説The Astonishing Adventures of Fanboy and Goth Girlでデビュー。以来ＹＡ小説をふくむいくつもの作品を発表している。

東京創元社　〒162-0814 東京都新宿区新小川町1-5 TEL03-3268-8231 http://www.tsogen.co.jp/

読者モニターの皆様の声（抜粋）

『さよなら、シリアルキラー』

＊青春ミステリと呼ばれるものは数あれど、こんな**変化球**を投げて見せる青春ミステリはそうそうないと舌を巻きました。**スリリング**でありながら、恐ろしいだけの小説とは違う趣があるのです。（30 代女性）

＊連続殺人が起こり恐怖と緊迫感が覆う物語の中に、**親友や恋人との絆、少年の成長という「青春」**の要素が描かれ、単なるシリアルキラーを題材とした小説とは一線を画しています。主人公の設定もユニーク。**驚愕の展開の連続**ですが、最後にはタイトルの「さよなら」が力強くも哀しく響きます。（20 代女性）

＊連続殺人犯を父にもち、幼いころから殺人鬼の英才教育を施されてきた…そんな主人公ジャズの特異な設定だけでこの本の映画化権は買い！　その後のストーリーはどう進むのかと思ったけれど…原題「I Hunt Killers」の意味が判明する終盤、**いい意味で裏切られました**（こりゃ私費でも買いだわ）。（40 代女性）

『殺人者たちの王』

＊物語はニューヨークに舞台を移し、前作よりダイナミックに。そして、主人公やその周りの人々の心の動きはより繊細に。前作でほのめかされた謎はさらに深まり、複雑に。三部作とは書いてあったが、今作の幕切れには愕然。どうなる、どうする！のピークに、プツンと「以下次号」。早く次が読みたくてたまらない。そして、最後の一ページに、また新たなる謎の提示。**主人公の迷いや焦りに共感しつつ、存分に作品世界に振り回された。**最終巻が楽しみでならない。（40 代男性）

＊今まで本格ミステリーは読みにくいと思っていましたが、この本は違いました。ニューヨーク市警、ＦＢＩを巻き込んだ今回のゲームでは、まるで自分がゲームの主人公になったような感覚に陥りました。**間違なく今年一番の本格ミステリーでした。**（30 代女性）

＊軽い気持ちで読み始めたら、葛藤あふれる少年の成長物語にすっかりハマってしまった。成長の過程で父と対峙するというのは永遠のテーマだけれど、その父がシリアルキラーでその英才教育を受けたがゆえに人間を獲物としてみてしまうという十字架を背負ってしまった少年が、それでもまともに生きていこうとする姿は**単なるミステリーの枠を超えた**ストーリー。（50 代男性）

『ラスト・ウィンター・マーダー』

＊著者に謝りたい。すっかり侮っていたことを。１巻を読んでいた時には、終盤にこんな展開が待っているなど予想だにしていませんでした。２巻の時にはこのラストに向けて動き出していたのですから、大胆さと周到さに驚かされました。**ニューヨーク・タイムズ・ベストセラーというのは伊達じゃなかった。**（40 代男性）

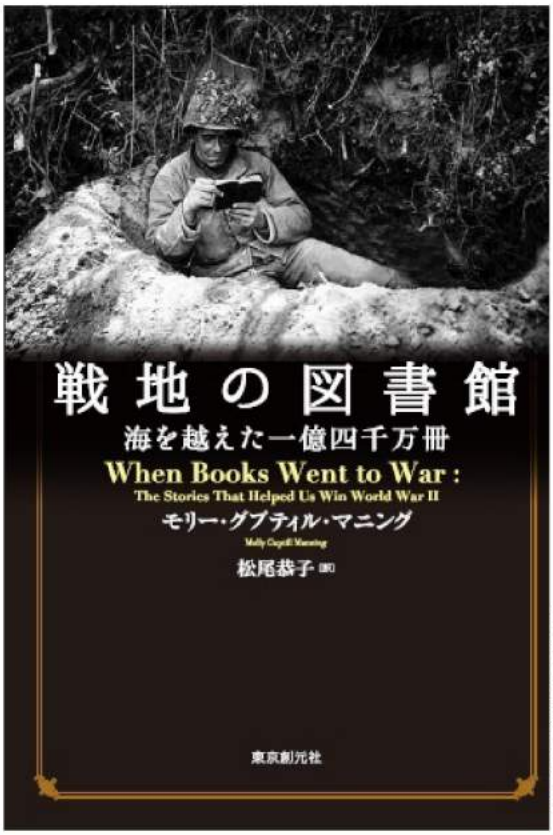
＊三部作を締めくくるにふさわしい内容でした。二作目のラストも充分悲鳴ものでしたが、今回味わったスリルはその比ではありません。**二転、三転どころか二十転も三十転もする展開は、ミステリを読む楽しさを再認識させてくれました。**ジャズの孤独な闘いには読んでいて胸が痛くなりましたが、守り支えてくれる大人の存在に救われます。三部作の中でいちばん痛くて、いちばんジャズを近くに感じられる一冊です。（女性）

＊三部作の完結編として、今まで以上の読みごたえを約束してくれる作品であり、読者の心を擦り切らせながらも一気に読ませる作品だった。彼らの行く末を結末まで見届けることができたのは幸福でしかない。**予想を裏切り期待を裏切らない快作だった。**（20 代女性）

＊自分の中の怪物の血を恐れつつも、そこから逃げ出さずに向きあおうとするジャズは本当にかっこいい！　とはいえ**この作品の魅力の一端は、ビリーというキャラクターの存在だと思います。**ジャズの頭の中で囁く彼の言葉に興奮させられてしまうのも、シリアルキラー・ビリーが余りに魅力的だから。（40 代女性）

戦争が本のかたちを変えた
本が戦争の命運を決した

戦地の図書館
海を越えた一億四千万冊



※書影は作成途中のものです

モリー・グプティル・マニング著
松尾恭子訳

四六判上製　定価 2,500円+税
ISBN 978-4-488-00384-5
装幀:中村聡

◎1,300冊を超える米軍発行のペーパーバック〈兵隊文庫〉の全リストを収録（邦訳情報付）

◎図版・写真＝全8頁

ニューヨークタイムズ ベストセラー入り!

ナチス・ドイツは発禁・焚書によって、一億冊を超える書物をこの世から消し去った。
対するアメリカは、戦地の兵隊たちに本を送り続けた――その数、およそ一億四千万冊。

アメリカの図書館員たちは全国から寄付された書籍を兵士に送る図書運動を展開し、
軍と出版業界は「兵隊文庫」という新しい形態のペーパーバックを発行して、
あらゆるジャンルの本を世界の戦地に送り届けた。
ある兵士は、兵隊文庫を読み、遠く離れた故郷に思いを馳せた。
ある兵士は、地獄のような現実を忘れるためにそれを開いた。
本はヒトラーの思想戦に対抗する武器となる一方で、兵士たちの心の痛みを癒したのだ。

本のかたちを、そして社会を根底から変えた、
史上最大の図書作戦の全貌を描く傑作ノンフィクション！

東京創元社編集部　〒162-0814 東京都新宿区新小川町1-5　TEL 03-3268-8204
編集担当・桑野崇　t_kuwano@tsogen.co.jp

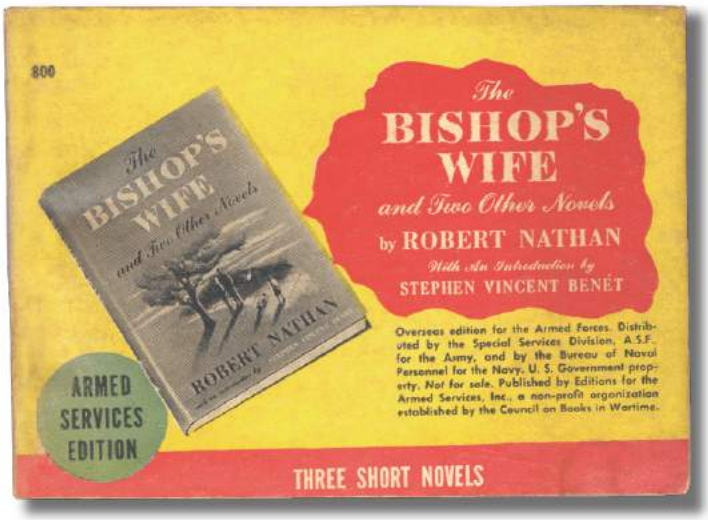
〈兵隊文庫〉全リストの見本

付録B　兵隊文庫リスト

Aシリーズ（1943年9月）

A-1 Leonard Q. Ross, *The Education of Hyman Kaplan*
A-2 Joseph C. Grew, *Report from Tokyo*（ジョセフ・C・グルー『東京報告』細入藤太郎訳、日本橋書店）
A-3 Ogden Nash, *Good Intentions*
A-4 Kathryn Forbes, *Mama's Bank Account*（キャスリン・フォーブス『ママの想い出』ギータ・ムールティ訳、フェーニックス出版社）
A-5 Robert Carse, *There Go the Ships*
A-6 Rose C. Feld, Sophie Halenczik, *American*
A-7 Theodore Pratt, *Mr. Winkle Goes to War*
A-8 Charles Dickens, *Oliver Twist*（チャールズ・ディケンズ『オリバー・ツイスト』北川 徹二訳、角川文庫）
A-9 John Steinbeck, *Tortilla Flat*（ジョン・スタインベック『トーティーヤ・フラット』大友芳郎、郡知上佑訳、『スタインベック全集2』所収、大阪教育図書）
A-10 John R. Tunis, *World Series*（ジョン・Rチュニス『ワールドシリーズ』下島連訳、東京堂）
A-11 James Thurber, *My World and Welcome to It*
A-12 Frank Gruber, *Peace Marshal*
A-13 H. L. Mencken, *Heathen Days*
A-14 C. S. Forester, *The Ship*（セシル・スコット・フォレスター『巡洋艦アルテミス』高橋泰邦訳、西武タイム）
A-15 William Saroyan, *The Human Comedy*（ウィリアム・サロイヤン『人間喜劇』小島信夫訳、晶文社）
A-16 Antoine de Saint-Exupéry, *Wind, Sand, and Stars*（サン＝テグジュペリ『人間の土地』堀口大學訳、新潮文庫）
A-17 John Bartlett Brebner and Allan Nevins, *The Making of Modern Britain*
A-18 Philip K. Hitti, *The Arabs*
A-19 Howard Fast, *The Unvanquished*
A-20 Albert Q. Maisel, *Miracles of Military Medicine*
A-21 Herbert Agar, *A Time for Greatness*
A-22 Graham Greene, *The Ministry of Fear*（グレアム・グリーン『グレアム・グリーン全集9　恐怖省』野崎孝訳、早川書房）
A-23 Max Herzberg, Merrill Paine, and Austin Works, eds, *Happy Landings*
A-24 Herman Melville, *Ty*
ル『タイピー――南海の
ち』中山善之訳、柏艪舎
A-25 Rackham Holt, *Geo*
Carver
A-26 Joseph Conrad, *Lo*
フ・コンラッド『世界
ロード・ジム』柴田元幸
社）
A-27 Carl Sandburg, *Storm*

実際の〈兵隊文庫〉



〈兵隊文庫〉は兵士たちに最適化されたペーパーバック。それぞれ軍服のズボンと胸のポケットに収まる、大小二つのサイズがあった。横長サイズの二段組み。当初は糊で製本されていたが、ジャングルで溶けたり、糊を食べる虫がいたため、ホッチキスが使用されるようになった。重さはハードカバーの五分の一で、一冊の原価は7セントをわずかに超える程度だった。

目次

はじめに

第一章　蘇る不死鳥

第二章　八十五ドルの服はあれど、パジャマはなし

第三章　雪崩れ込む書物

第四章　思想戦における新たな武器

第五章　一冊摑め、ジョー。そして前へ進め

第六章　根性、意気、大きな勇気

第七章　砂漠に降る雨

第八章　検閲とフランクリン・デラノ・ルーズヴェルトの四期目

第九章　ドイツの降伏と神に見捨てられた島々

第十章　平和の訪れ

第十一章　平均点を上げる忌々しい奴ら

おわりに／謝辞／付録A・禁書の著者／付録B・兵隊文庫リスト／原注／人名索引／訳者あとがき

モリー・グプティル・マニング

Molly Guptill Manning

ニューヨーク州ラッサム生まれ。ニューヨーク州立大学オルバニー校で米国史を学び、2002年に、イェシーヴァー大学ベンジャミン・N・カードーゾ・ロースクールに入学。その後、第二巡回区連邦控訴裁判所で弁護士を務める。2012年にノンフィクション*The Myth of Ephraim*を発表したのち、本書を2014年に発表。